

ユニホーム全面刷新

おしゃれな街に調和



モチベーションと人材確保へ

【前橋市】前橋市は、今年度、ユニホームの全面刷新を行った。ユニホームは、職員のモチベーションを高め、市民との調和を図るため、前橋市のイメージカラーである「赤レンガ」を基調としたデザインを採用した。また、ユニホームの着用は、職員のモチベーションを高め、市民との調和を図るため、前橋市のイメージカラーである「赤レンガ」を基調としたデザインを採用した。

高齢運転者が安全運転

柿下 衰え認識し安全運転

【前橋市】前橋市は、高齢運転者の安全運転を促進するため、高齢運転者講習会を開催した。講習会では、高齢運転者の身体能力の衰えを認識し、安全運転の重要性を学ぶ機会を得た。また、高齢運転者の安全運転を促進するため、高齢運転者講習会を開催した。

レンガ倉庫を活用したマルシェを年2回開催



有形文化財「レンガ倉庫」

12月で創業100周年を迎える上毛倉庫(江原香社社長、前橋市)のレンガ倉庫は、明治時代に建てられ、国の登録有形文化財となったもので、現役で整備している。群馬県の地場産物である製糸業が隆盛し、前橋市が製糸・生糸の町として全国有数の市場を形成した1800年代に、製糸の保管倉庫として創業。1909年には日本銀行指定の倉庫となり、戦中・戦後は政府

府倉庫の指定管理倉庫にもなった。2008年末まで蔵の保管を行っていたが、現在は新聞用紙や段ボールなどの紙製品や食品などを取り扱う倉庫に作り替えられ、江原本家上毛倉庫1号棟、2号棟は商業の衰退とともに、関係する建物が次々と解体された。当時、街中にはたきごんの煙突があったが、今では「つちまき」がないという。歴史や記憶がなくなると「記憶遺産」1800-90年代には産業界の衰退とともに、関係する建物が次々と解体された。当時、街中にはたきごんの煙突があったが、今では「つちまき」がないという。歴史や記憶がなくなると「記憶遺産」

一方、従業員との「町の人が見る機会がなくなると」という声も聞かれた。レンガ倉庫を活用したマルシェを始め、春・秋の2回開催しており、毎回100名以上、買い物客を呼び寄せ、上毛倉庫で写真撮影をする人など人気のイベントとなっている。また、映画やドラマのロケ地としても活用されることもあり、倉庫が休館となる日曜日に限って貸し出すこともある。江原氏は「倉庫として建てられたものの、倉庫としての仕事をあきらめ、その上で、地域に愛される存在でありたい」と話している。(丸山 隆平)

上毛倉庫

前橋市民の心象風景に



高運輸

【前橋市】前橋市は、高運輸の促進を図るため、高運輸講習会を開催した。講習会では、高運輸の重要性を学ぶ機会を得た。また、高運輸の促進を図るため、高運輸講習会を開催した。

横須賀でトラフェス

【横須賀市】横須賀市は、トラフェスを開催した。トラフェスでは、トラクターの展示や体験が行われ、市民の関心を引いた。また、トラフェスを開催した。

中小むけ運転技能講習

【前橋市】前橋市は、中小むけ運転技能講習会を開催した。講習会では、中小むけ運転技能を学ぶ機会を得た。また、中小むけ運転技能講習会を開催した。



【前橋市】前橋市は、ローリーカーの普及を図るため、ローリーカー講習会を開催した。講習会では、ローリーカーの運転技能を学ぶ機会を得た。また、ローリーカー講習会を開催した。